自然体験学習および自然生態調査への取り組み（前職）

～南アルプス山麓のかざこし子どもの森公園にて～

地域戦略研究所　櫛谷　知之

はじめに

今年４月に当社に転職するまで、私は長野県南部の飯田市でＮＰＯ法人の研究員として勤務していた。そのＮＰＯは、指定管理者として飯田市の施設の管理運営を行っており、私はそのうち自然公園の生物担当研究員として、週末は地元の子供たちに自然体験学習を、平日は公園の緑地管理と生態調査を行っていた。

今回、夏季研修会という発表の場を頂いたので、前職における活動内容を紹介させていただくとともに、ささやかではあるが伊那谷の動物写真などをスライドにて紹介したく思う。

１．平成記念かざこし子どもの森公園

平成記念かざこし子どもの森公園は、長野県の南部、飯田市にある総合公園である。市街地に張り出した半島状の山岳丘陵を丸ごと敷地に含む､総面積 26.1ha の自然豊かな公園である。

平成記念かざこし子どもの森公園

公園の柱となる事業および市民との関わりを下図に示す。さらに、これらの事業を特徴づける理念として、①体験学習の重視　②子供の健全育成という視点　③市民参加の推進　④自然に優しい緑地管理（完全無農薬、ヤギ放牧による草地管理）などが挙げられる。この事業・理念のもと、スタッフ及びボランティア一同は科学ジャーナリストの後藤道夫公園長の指導を受け、子供達に開かれた公園づくりを目指して活動を展開している。

今回、当公園の柱である「体験学習」事業について、私が担当してきた自然系の体験学習を紹介するとともに、その基礎となる各種の生態調査について述べる。

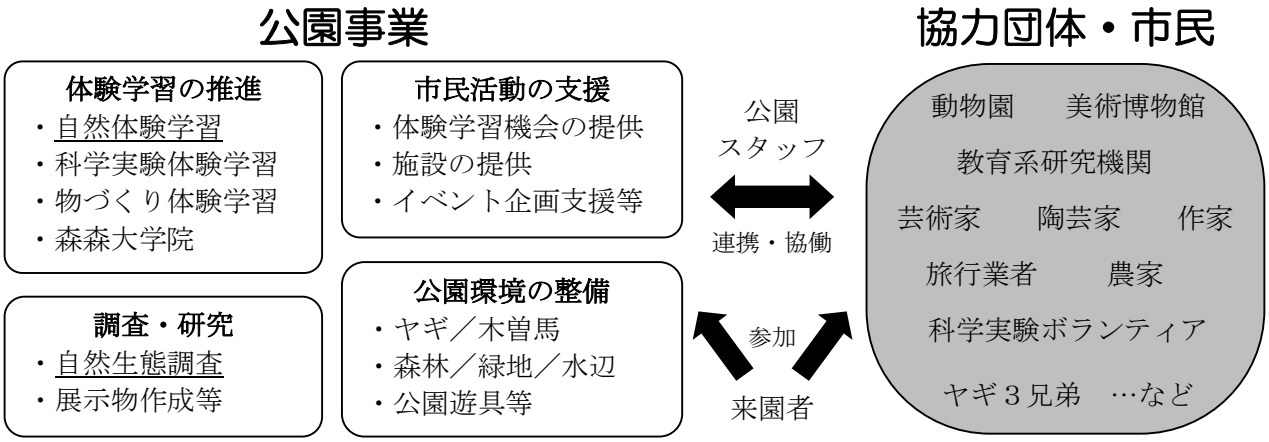

図１　公園の主な事業とそれを支える人達

２．自然系諸活動の目的

２－１．自然体験学習

公園事業の３原則は、「楽しんでもらえる」、「安全である」、「体験できる」ことである。これを自然体験学習に置き換えると、「自由にのびのびと遊べる」、「危険な動植物・場所・行動などを察知する」、「参加者が自ら進んでできる内容にする」ということになるかと思う。

これらを軸とし、自然との密な触れ合い体験を通じ、参加者に「生命の不思議さ」や「命のつながり・循環」、「自然への興味・楽しさ」などを感じてもらうこと、またはその機会を提供し、気付きへのきっかけづくりを行うこと、を目的とした。（原体験機会の提供）

２－２．自然生態調査

当公園の敷地は 26.1ha と広く、元は城郭だけに地形も起伏に富む。そこには芝生、針葉樹林、落葉広葉樹林、ため池、水生植物群落、農地など様々な環境が存在し、生息する植生や生物も数多い。これら生物の情報を収集整理し、公園全体の生態系を把握すること、また、自然体験学習の引き出しを増やし質を高めること、調査結果を踏まえてより良い公園作りに資すること、併せて地域生態系の砦として機能させること、などを主な目的とした。（公園資源の発掘とフィードバック）

３．当時の現状と背景

３－１．自然体験学習

当公園の自然体験学習は、「森森探検隊」というプログラムの一環として月に２回、土曜日午後に行う（表１参照）。基本的には、その時期に見られる「旬」の動植物を取り扱うが、広報の都合上、プログラムを約半年前に企画・決定する必要がある。生物の一瞬とも言える「旬」を逃さないためには、対象となる生物の生活史を、公園の気候地質に合わせて把握し、予想していく必要があった。この点にも、自然生態調査の重要性が現れているといえる。

生き物	ケロケロ調査隊
	カエルの卵をさがそう
	とんぼやバッタをつかまえよう
	バッタのジャンプ大会
	水辺のいきもの
	みんみん探検隊
	もぐもぐ調査隊
	むしむしとりとり探険隊
	秋の虫さがし
	冬ごしのいきもの
	しじみ発見調査隊
	魚とりもんどり
	ぴよぴよ探索隊
	水の中のミクロの世界
	土の中のミクロの世界
遊び・探検	81問オリエンテーリング
	森エンテーリング
	春のオリエンテーリング
	宝さがし
	ひみつ基地づくり
	はらっぱ遊び
	紅葉の虚空蔵山に登ろう
	冬遊び
	雪だるま＆そりすべり
植物	お花を植えよう
	野いちご狩り
	どんぐりひろい
	春の自然散策
	冬支度の森を探検しよう

表１　森森探検隊で実施したプログラム一覧（H17,18 実績）

３－２．自然生態調査

当公園で進めている調査を大別すると、おしぼら池の調査とその他調査に分けられる。

おしぼら池は、昔からあるため池を利用した公園唯一の水辺環境である。複数の小さい池と小水路で連結され、周辺は農地と山林に囲まれ、多くの生き物が生息する。分かりやすく言えば、ゲンジボタルとヘイケボタルを同時に観察できる程度の場所であり、自然体験学習でも大人気の場所である。一方で、周辺農地からの富栄養化物質の流入による水質汚濁、それに伴う水生植物の過剰な繁茂による景観の悪化、および水生生物の減少が急速に進行し、その解決が喫緊の課題となっていた。

水生動物	底生動物
	魚類
	両生・爬虫類
水生植物	
陸生動物	陸上昆虫
	両生・爬虫類
	鳥類
	哺乳類
その他	水質・水温
	流量
	水深
	水源
	近隣のため池

表２　おしぼら池の調査項目

おしぼら池以外の調査については、公園全域をフィールドに、哺乳類から土壌動物まで対象を広く調査する必要があった。自然体験学習のメニューは、極端に偏ってはならない。また、生物に関して広く把握しておかないと、公園整備の効率が悪くなり、保全すべきものを根こそぎ破壊してしまう危険もあるからである。

４．自然系諸活動の成果

４－１．自然体験学習

年度	実施回数	参加人数
H16	22	296
H17	18	306
H18	19	363

※H18は2月末現在

表３　自然体験学習の実績

少々古いが、過去３年間の自然体験学習の活動実績は表３のとおりである。当初は参加人数も決して多くなく、知名度も高くはなかったが、年々活動を続けるうちにリピーターの家族も増え、多い時には 50 人超の子供が賑やかに参加し、あまりの賑やかさに観察しようとした生き物が逃げてしまったという事もあった。紆余曲折はあれど、市民の間には着実に浸透してきたと思われる。なお、この自然体験学習は平成 16 年度から 20 年度まで５年間行った。現在は、飯田市立動物園のスタッフが引き続き活動を行っている。

４－２．自然生態調査

写真１　おしぼら池

おしぼら池の調査について、環境改善の点で水質汚濁・景観の悪化・水生生物の減少という３つの課題は、個別に捉えては解決が難しい部分があった。特に流入水については制御不可能であった。そこで、これらを解決するために出した結論は実に簡単で、非常に労力の掛かるものであった。つまり「藻刈り」を行い、刈った藻を農地に還元することである。これにより、３つの問題は概ね解決できる見通しを得ることができた。昔ながらの里山の農作業風景である。しかし、実際に藻刈りを行ってみると、これにはとてつもない労力が必要であることが分かった。ＮＰＯとして予算と人手が限られる中、結局はできる範囲で管理していき、後は自然の遷移に任せるという処に落ち着くこととなった。

自然生態調査については、調査結果を随時、自然体験学習の内容に反映させてきた。また、調査結果は「自然体験学習メニュー表」として公開し、他のスタッフでも指導が可能な体制をつくることができた。なお、調査結果のうち、一部の成果はＨＰで公開している。

（http://www.dia.janis.or.jp/~kazetaro/research/Creatures.htm）

５．おわりに

当公園では自然関連活動を計５年間行ってきた。その過程で、一つ分かったことがある。それは、忘れたころに発見がある、ということである。調査してやろうという気持ちの時は、ある意味、普通の結果しか出ない。全く意識していない時に、宝物といえる程の自然との出会いを体験することが多い。これは単なる力量不足かもしれないし、あたり前のことかもしれない。

これが一体何を意味するものか、ゆるゆると解明していきたいと思っている。